

**TOYO TIRES**

**2026年度第1四半期  
決算説明資料**

2026年5月15日

**TOYO TIRE 株式会社**

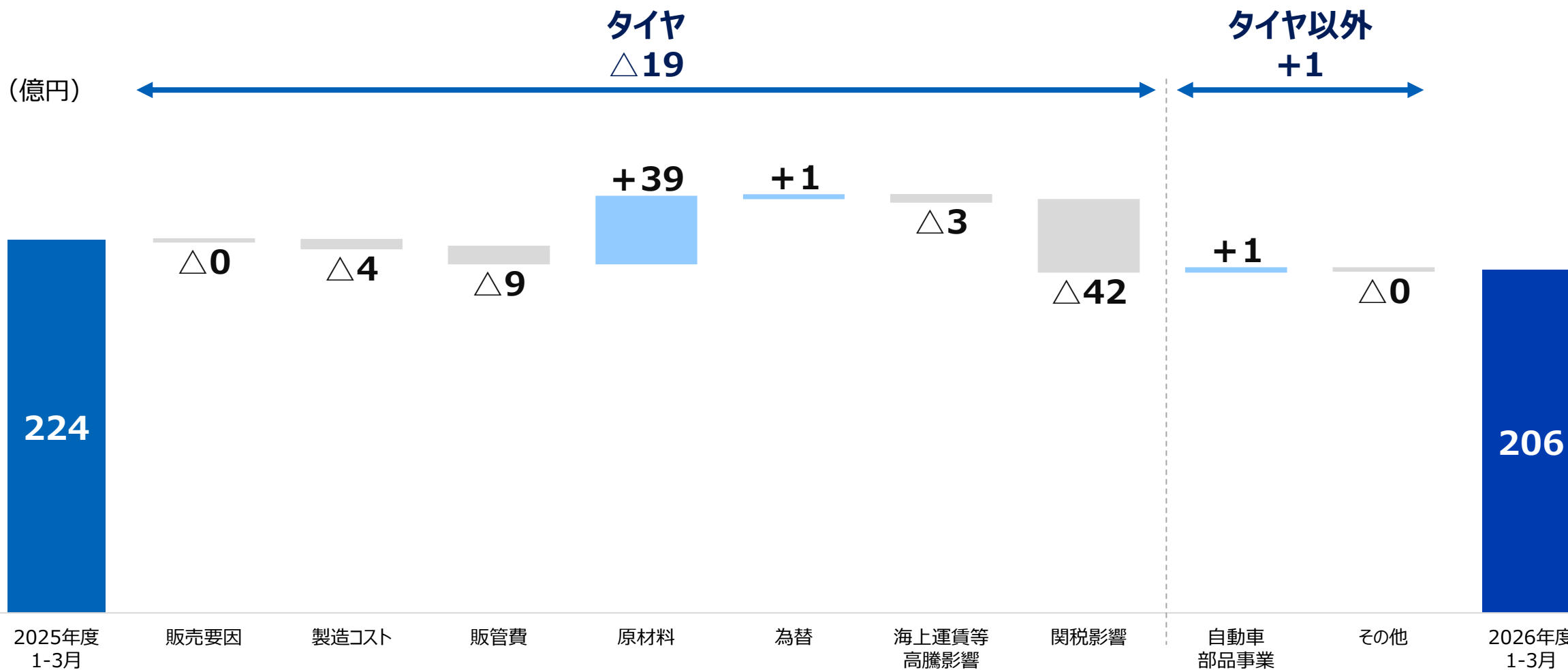
**1. 2026年度 第1四半期実績**

2. 2026年度 通期業績予想

3. トピックス

- 販売本数の減少に伴い、売上高、営業利益ともに前年同期を下回る
- 為替差損を計上した前年同期に比べ、**経常利益は増加**
- **中東情勢の影響は166億円**（営業利益ベース）を見込む ⇒ **各種施策により吸収**する想定
- 2026年度の通期予想は、2月公表時点から変更なく、
  - ・ **営業利益 940億円**
  - ・ 1株あたり**年間配当金は 135円**

	2026年度 1-3月実績	2025年度 1-3月実績	対前年度 増減額	対前年度 増減率
売上高	130,951	135,510	△4,558	△3.4%
営業利益	20,610	22,419	△1,809	△8.1%
営業利益率	15.7%	16.5%	—	—
経常利益	21,352	18,256	+3,096	+17.0%
四半期純利益	15,476	13,505	+1,970	+14.6%
※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益				
米ドル	155円	154円	+1円	
ユーロ	184円	160円	+24円	



2024年度 10-12月実績	販売要因	製造コスト	販管費	原材料	為替	海上運賃等 高騰影響	関税影響	自動車 部品事業	その他	2025年度 10-12月実績
177	+70	+15	+4	+35	+13	$\Delta 6$	$\Delta 50$	$\Delta 4$	+0	253

(百万円)

売上高	2026年度 1-3月実績	2025年度 1-3月実績	対前年度 増減額	対前年度 増減率
タイヤ	119,329	123,764	△4,434	△3.6%
自動車部品	11,622	11,746	△124	△1.1%
その他	—	—	—	—
調整額	—	—	—	—
合計	130,951	135,510	△4,558	△3.4%

※売上高には、セグメント間の内部売上高または振替高を含む。

営業利益	2026年度 1-3月実績	2025年度 1-3月実績	対前年度 増減額	対前年度 増減率
タイヤ	20,042	21,901	△ 1,859	△8.5%
営業利益率	16.8%	17.7%	—	—
自動車部品	567	509	+57	+11.3%
営業利益率	4.9%	4.3%	—	—
その他	0	8	△7	△92.9%
調整額	—	—	—	—
合計	20,610	22,419	△1,809	△8.1%

※セグメント利益の調整額は、セグメント間取引の消去額等を含む。

(百万円)

売上高	2026年度 1-3月実績	2025年度 1-3月実績	対前年度 増減額	対前年度 増減率
日本	23,826	26,978	△3,152	△11.7%
北米	92,381	91,545	+835	+0.9%
その他	14,744	16,986	△2,242	△13.2%
消去または全社	—	—	—	—
合計	130,951	135,510	△4,558	△3.4%

※売上高には、セグメント間の内部売上高または振替高を含まず。

営業利益	2026年度 1-3月実績	2025年度 1-3月実績	対前年度 増減額	対前年度 増減率
日本	15,474	13,981	+1,493	+10.7%
北米	2,318	5,361	△3,042	△56.8%
その他	3,905	4,129	△224	△5.4%
消去または全社	△1,088	△1,052	△35	—
合計	20,610	22,419	△1,809	△8.1%

1. 2026年度 第1四半期実績

**2. 2026年度 通期業績予想**

3. トピックス

(百万円)	2026年度 1-6月予想	2025年度 1-6月実績	対前年度 増減額	対前年度 増減率
売上高	296,000	283,410	+12,589	+4.4%
営業利益	42,000	48,176	△6,176	△12.8%
営業利益率	14.2%	17.0%	—	—
経常利益	32,000	43,730	△11,730	△26.8%
中間純利益	20,000	33,330	△13,330	△40.0%
※中間純利益：親会社株主に帰属する中間純利益				
1株あたり 中間配当金	65円	60円	+5円	
米ドル	145円	149円	△4円	
ユーロ	170円	162円	+8円	

(百万円)	2026年度 1-12月予想	2025年度 1-12月実績	対前年度 増減額	対前年度 増減率	2026年度 7-12月予想	対前年度 増減額
売上高	620,000	594,923	+25,076	+4.2%	324,000	+12,487
営業利益	94,000	97,350	△3,350	△3.4%	52,000	+2,825
営業利益率	15.2%	16.4%	—	—	16.0%	—
経常利益	82,000	101,328	△19,328	△19.1%	50,000	△7,597
当期純利益	54,000	63,614	△9,614	△15.1%	34,000	+3,716

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

1株あたり 年間配当金	135円	130円	+5円	—
米ドル	145円	150円	△5円	
ユーロ	170円	169円	+1円	

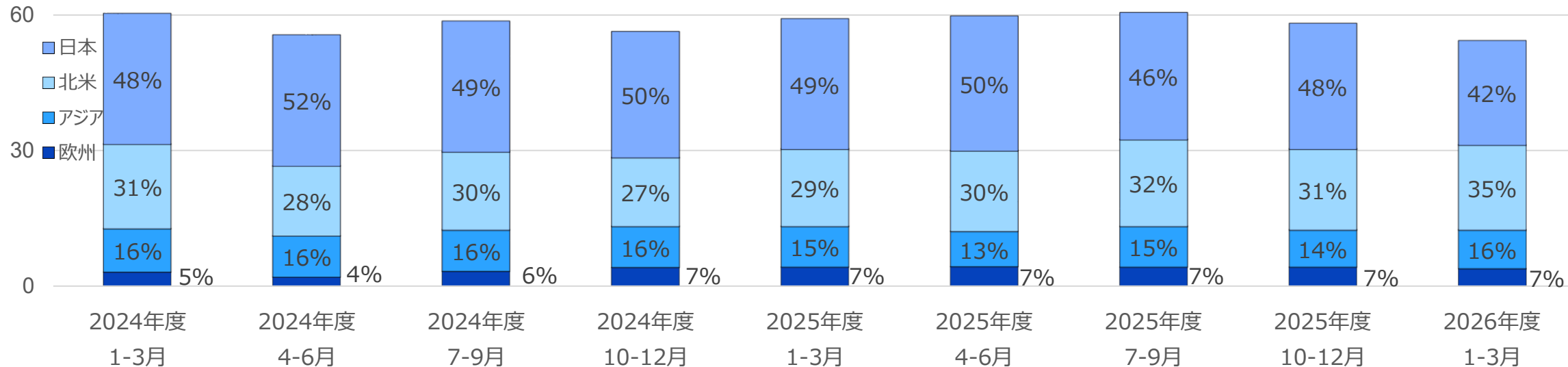
2026年度通期 為替感応度

米ドル	8億円/年
ユーロ	1億円/年

営業利益ベースで1円の変動につき

## 地域別生産量構成比

(千トン)



2025年度				
1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-12月
28.8	29.8	28.1	27.8	114.6
17.1	17.8	19.2	17.9	72.0
9.0	7.8	9.0	8.2	34.0
4.2	4.3	4.2	4.2	16.8
<b>59.1</b>	<b>59.7</b>	<b>60.5</b>	<b>58.1</b>	<b>237.4</b>
98%	107%	103%	103%	103%

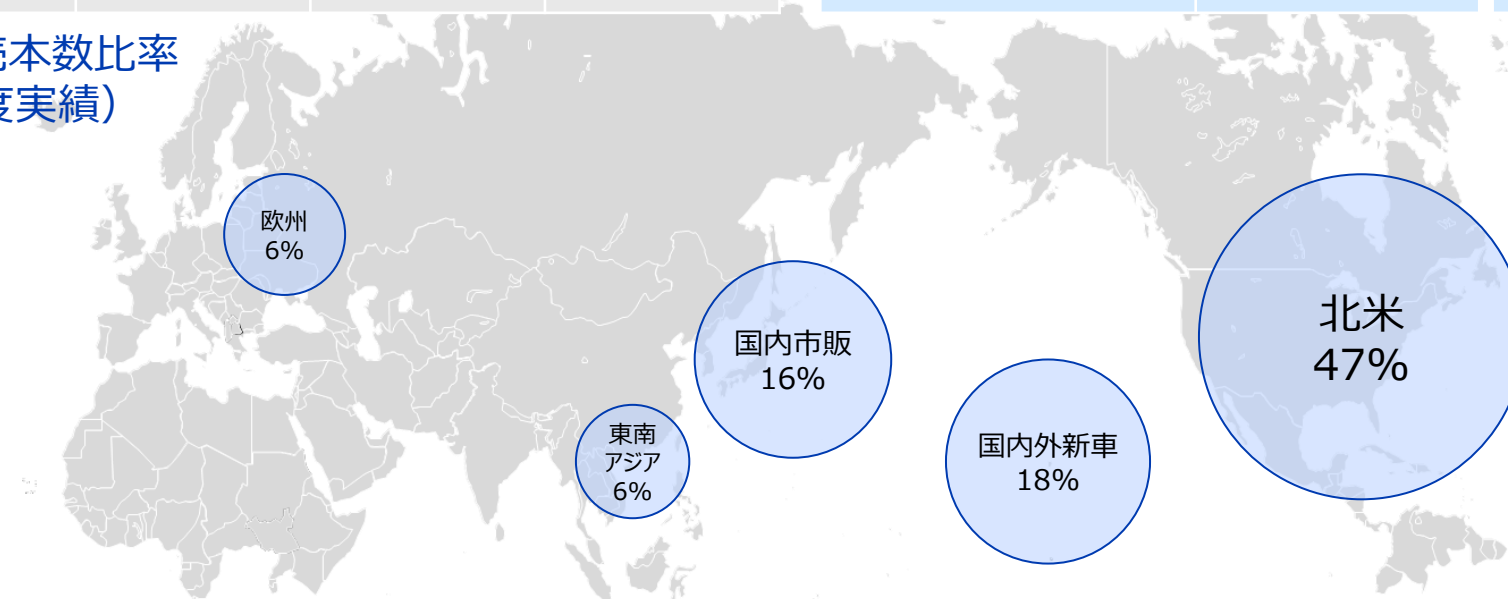
	2026年度	2026年度
単位:千トン	1-3月実績	1-12月予想
日本	<b>23.1</b>	120.9
北米	<b>18.8</b>	73.6
アジア	<b>8.6</b>	35.9
欧州	<b>3.9</b>	17.9
<b>合計</b>	<b>54.4</b>	<b>248.2</b>
前年比率	<b>92%</b>	105%

※前年同期間を100とした場合の前年比率 (%)

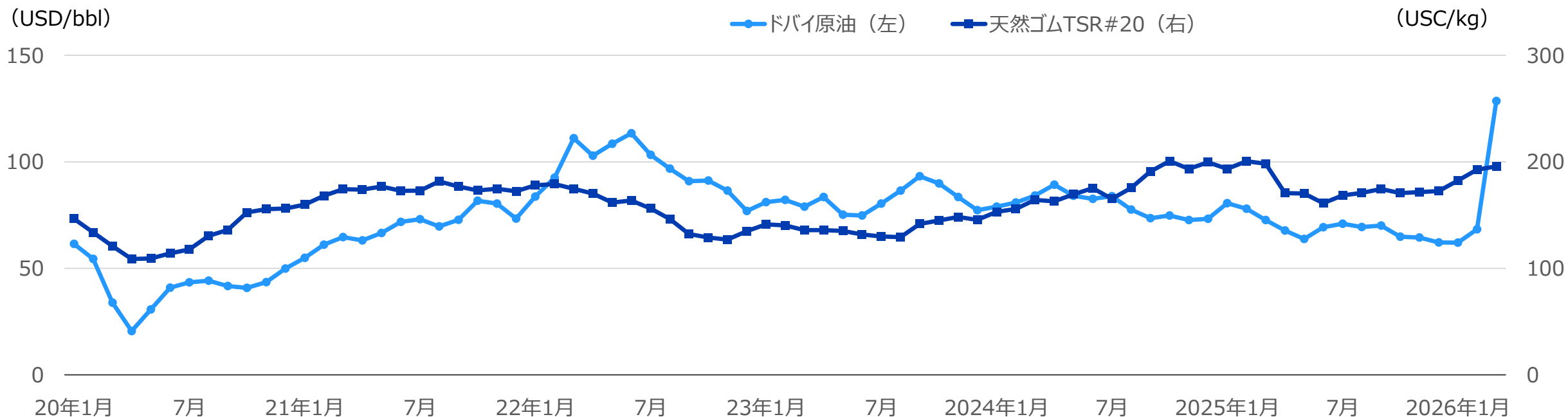
2025年度				
1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-12月
104	98	103	104	<b>102</b>
97	107	109	91	<b>100</b>
99	98	92	98	<b>97</b>
105	100	100	108	<b>103</b>
67	99	40	62	<b>67</b>
103	103	94	94	<b>98</b>
99	99	96	98	<b>98</b>

		2026年度	2026年度
		1-3月実績	1-12月予想
国内外新車		<b>117</b>	107
国内市販		<b>67</b>	110
海外市販		<b>85</b>	104
内 訳	北米	<b>94</b>	104
	欧州	<b>48</b>	92
	東南アジア	<b>90</b>	115
<b>合計</b>		<b>89</b>	106

参考：地域別販売本数比率  
(2025年度実績)



## ドバイ原油・天然ゴムTSR#20価格推移 (SICOM)



## 価格変動影響額 (営業利益ベース) 単位：億円

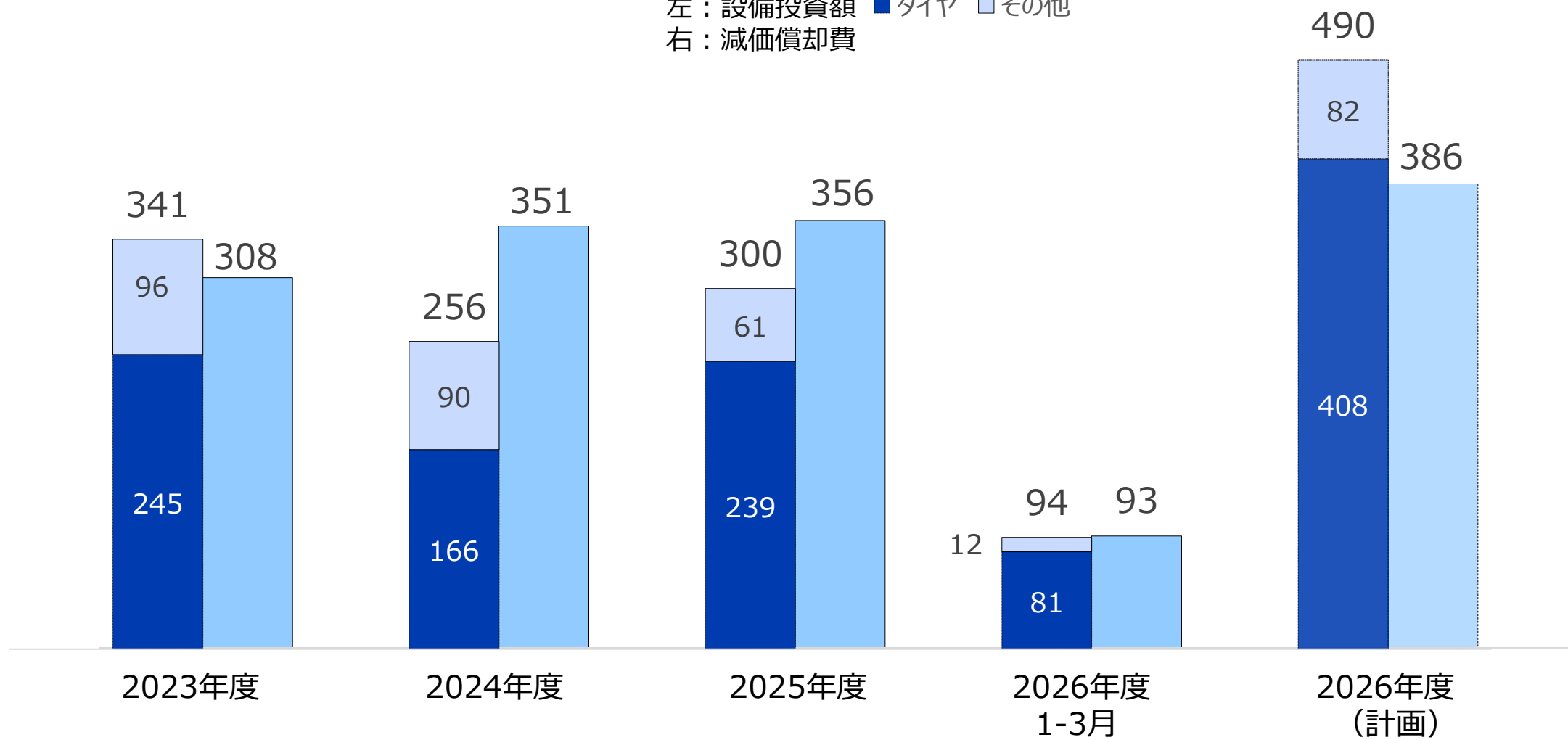
2025年度				
1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-12月
△28	△26	△3	+11	△46
△3	+4	+22	+22	+45
+3	△1	△3	+2	+1
△28	△23	+17	+35	+0

	2026年度
	1-3月実績
天然ゴム	+14
石化品	+21
その他	+4
<b>合計</b>	<b>+39</b>

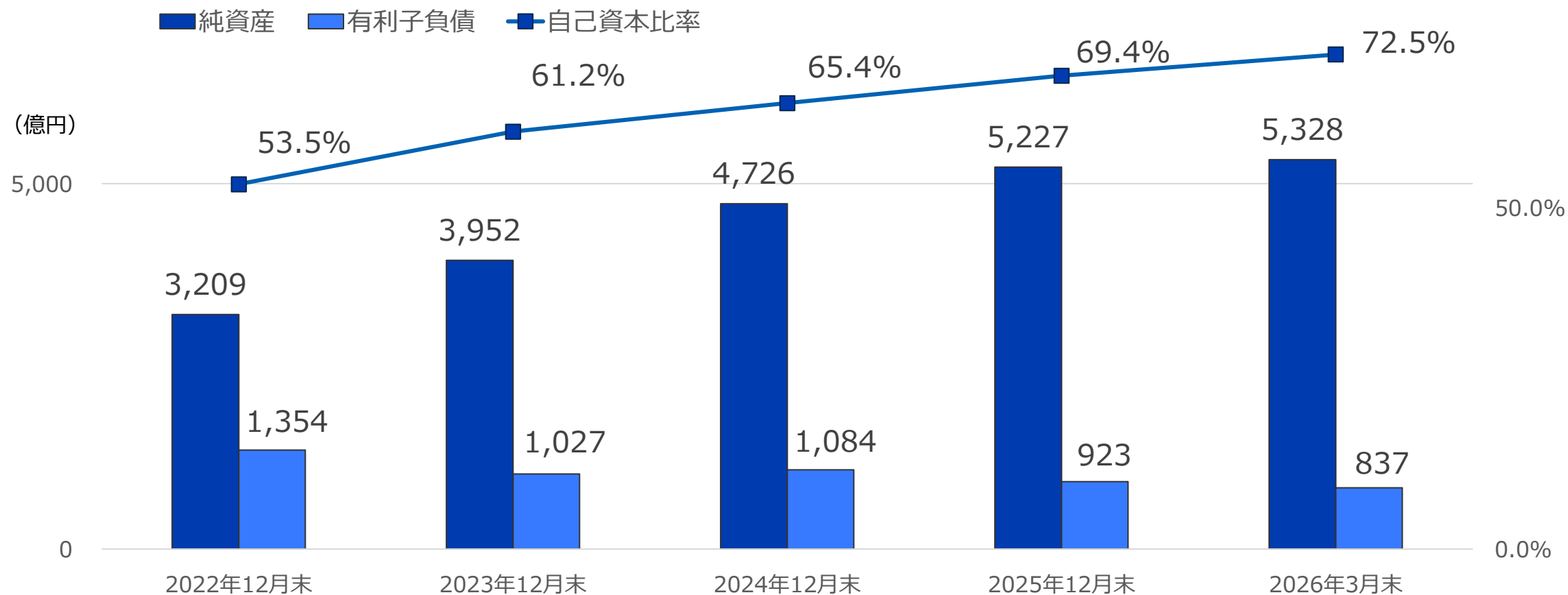
## 設備投資額と減価償却費（億円）

注）設備投資には使用权資産に関するものは含みません。減価償却費には使用权資産に掛かる部分を含みます。

左：設備投資額 ■ タイヤ □ その他  
右：減価償却費



# 有利子負債残高と自己資本比率の推移



	2022年12月末	2023年12月末	2024年12月末	2025年12月末	2026年3月末
D/Eレシオ	0.42	0.26	0.23	0.18	0.16
ネットD/Eレシオ	0.29	0.13	0.05	△0.05	△0.04

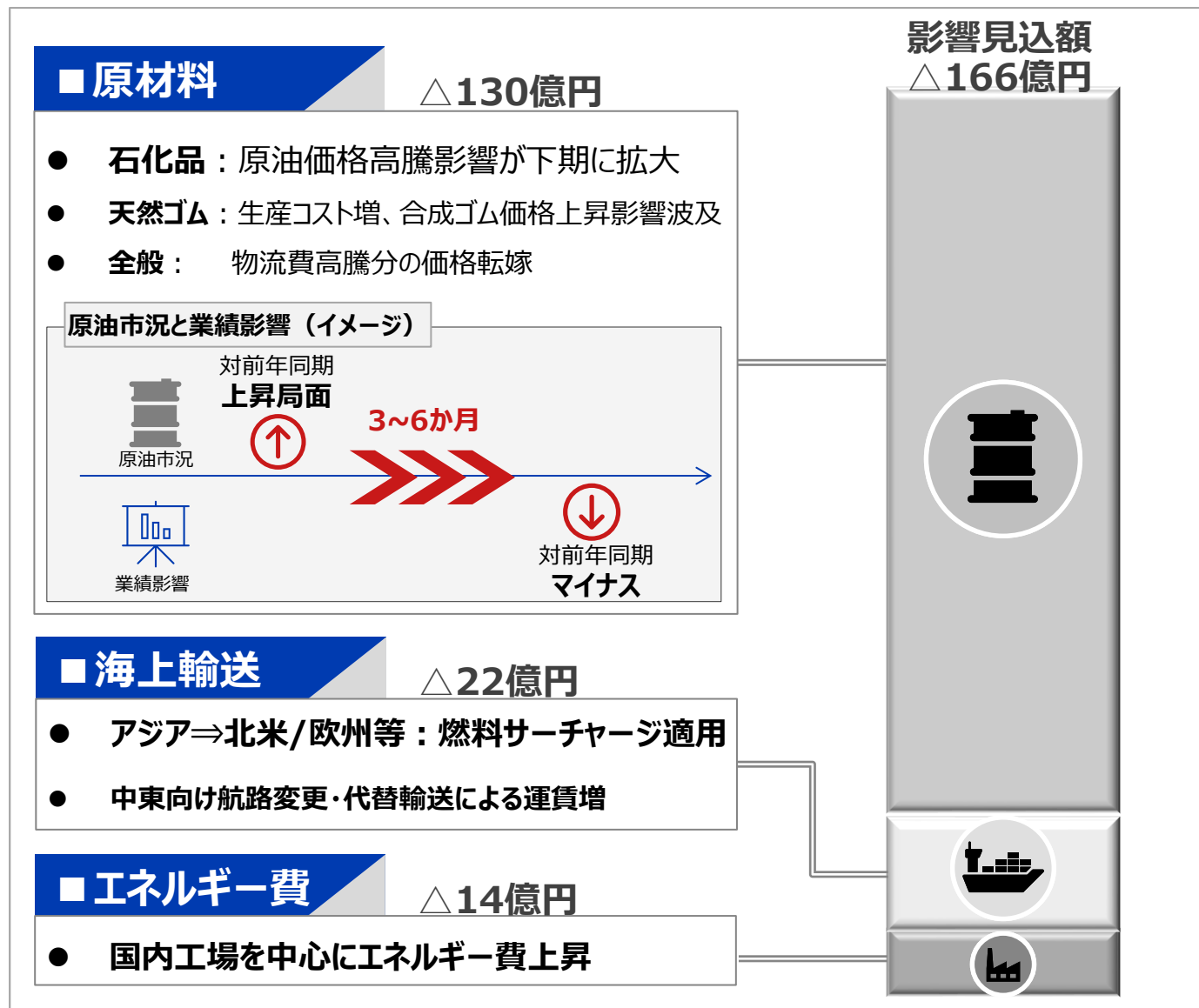
1. 2026年度 第1四半期実績

2. 2026年度 通期業績予想

**3. トピックス**

## 影響を166億円※と試算、業績目標の達成に向け対応策を推進

※2026年度 営業利益ベース



### 【推進する対応策】



#### 価格転嫁

- 各市場での値上げ推進



#### 価格交渉

- 海運会社など関係先との継続交渉



#### アロケーションの最適化

- 地産地消の拡大



#### 販売ミックスの改善

- 好調なWLTRの生産・販売促進



#### コスト削減

- 具体的な削減案の策定・推進

記載の内容は、現時点で入手された情報に基づくもので、今後の状況によっては、影響額、施策などが大幅に変化する可能性があります。

セルビアR&Dセンターを起工：生産・販売・R&D機能を集約

セルビアR&Dセンター起工式を開催

- ◆ 2026年3月、セルビア工場内に新設するR&Dセンターの起工式を開催
- ◆ 当社及びセルビア共和国関係者など100名が参加

起工式でのセレモニー：写真左から  
齋藤駐セルビア臨時代理大使、当社取締役 守屋、ヴチッチ大統領



セルビアR&Dセンター

- 2027年1月 稼働予定
- 加工技術の高度化を担う中核拠点
- 新配合・新素材の開発、材料・配合設計、原料の調査・評価を担う



セルビアR&Dセンター 完成イメージ図

セルビア工場

- R&Dセンターと連携、テストコースでの実車試験まで一気通貫
- 欧州向けPROXESの生産比率向上



セルビア工場全景

生産・販売・R&D 機能の連携

欧州販売会社

- 欧州販売拠点をセルビア工場内に集約（2025年～）

欧州での事業基盤を強化、地産地消体制を確立

新商品

長距離輸送に適した  
トラック・バス用タイヤ「M177+」 (2025年12月発売)

北米  
向け

- 新しいトレッドパターン設計により、**耐偏摩耗性能が向上し、タイヤ寿命が伸長**
- 独自のコンパウンドと新しいトレッドパターン設計により、**長寿命かつ低燃費に貢献**
- e-balance※1により、**リトレッドによる再生性能とケーシングの耐久性が向上**



**M177+**

新商品

大型4軸低床トラック※2向け  
オールウェザータイヤ「M630」 (2026年1月発売)

日本  
向け



**M630**

- 労働時間規制によるドライバー不足の深刻化、整備士不足 ⇒整備業務の効率化が急務
- 当該車両特有のフロント軸の偏摩耗の進行傾向に対して、肩落ち摩耗を当社従来品比で61%低減※3、**優れた耐偏摩耗性能を実現**  
⇒**整備負荷を低減し、交換サイクルを長期化**

OPEN COUNTRY A/T III  
SUBARU クロストレック特別仕様車に採用

- クロスオーバーSUV「クロストレック」の特別仕様車に「OPEN COUNTRY A/T III」が採用

【採用仕様車】

- ・Touring WILDERNESS Edition
- ・Limited WILDERNESS Edition



※1 タイヤの形状安定、高剛性ビード、最適化シミュレーションにより、経済性や耐久性、環境性をバランスよく向上させた当社独自のトラック・バス用タイヤの開発技術

※2 前方に2つの操舵軸、後方に2つの複輪軸を持つ19.5インチタイヤ装着の大型貨物トラック

※3 トラック・バス用オールウェザータイヤ「M646」との比較

**TOYO TIRES**

**35<sup>th</sup>**  
ANNIVERSARY  
**PROXES**  
ESTD.1991



ニュルブルクリンク耐久レース  
SP9 クラス参戦開始

# ***TOYO TIRES***

本資料に掲載されている業績予想や計画などの将来にわたる部分については、現時点で入手された情報に基づき判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。  
従いまして、実際の業績は、さまざまな要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことを十分にご認識の上、ご活用下さい。